



# 園芸療法通信 2022年1月号

発行 内閣府認証 NPO 法人日本園芸療法士協会  
〒061-2276 北海道札幌市南区白川 1814 番地  
TEL 011-817-2950 FAX 011-817-8007

## 御挨拶

あけましておめでとうございます。

寅年を迎え、この一年を攻めの一年として企画実行を日々重ねる年としたいと年始に向けて考えております。世間はコロナで大変な時代で、本年も様々な面に対処せざるを得ませんが、こんな時こそ冷静に思考する時と思います。日本園芸療法士協会、緑友会、ワークセンターの3法人が連携して農福連携を目指し、六次産業の形を作り上げれば障がい者の人々が社会に貢献出来、実践は間近にあると念じております。

新年は1月4日から食材仕入、植物の種まきから出荷、製造、そして製品の達成、製品の配送、地下鉄の店舗の販売までをこなし、障がい者と支援員の日常が始まります。更にそれらを陰で支える管理支援は並々なる見えないものを見る努力を要求される仕事も待ち受けていて、株式会社ではありえない様々な景色があります。大変意義ある仕事で、国の政策である就労支援事業の醍醐味であります。

いよいよまた1年が始まります。ご支援を承りまして本年もよろしくお願い申し上げます。

令和4年 元旦 理事長 瀬山 和子

## ～ピアハーフ真駒内6号店リニューアルオープン～

令和4年を迎え、みなさまいかがお過ごしでしょうか。さて、当協会正園芸療法士のみなさまに、会報誌「園芸療法通信」をお届けしております。

令和3年の大きな出来事としましては、地下鉄真駒内駅の販売店舗がリニューアルオープンしたことになります。改札ほぼ正面であり、中央出入口のすぐ横という好立地です。循環式のフラワーポットや胡蝶蘭など、花関連のスペースに注力しただけでなく、店の一部にはお焼き・たこ焼き・せんべいの製造室「あまとうあん5号店」も備えている店舗となっています。幅10mで、面積もこれまでで最大となります。耐震工事の関係で閉店となっていた旧真駒内5号店も合併して復活したという形です。中央口ゆえに人の流れも多く、連日関連店舗で最高の売上を記録しております。



今年年会員の方に発送させていただきました×飾り・ハーブティは白川本部にて、クッキーは平岸の天人山ビル製造所にて手作りで作成しております。新商品のフルーツハーブティは白川のレモンバームを使用し、飲みやすく果汁をブレンド。癒し効果抜群で安眠できます。×飾りは「コロナ退散昇竜」という品になります。夫婦の龍神が協力し合って運を招くしめ飾りに、めでたい干支をあしらい、更に疫病退散のお祈りを込めた×飾りです。青森産ミヤマカンスグが周囲の空気を清めてくれることでしょう。

## ～赤い羽根共同募金 助成事業 豊平支部～

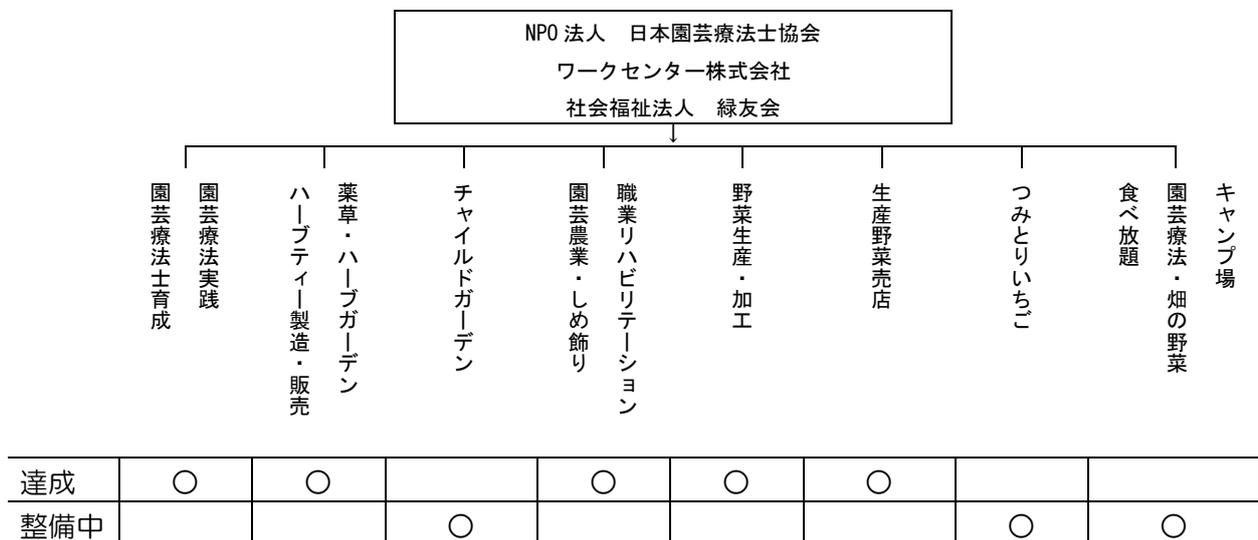
年末に実施されます、共同募金会の「施設活動支援事業助成」について、なんと令和2年度に申請したミルモルダー整備事業が助成決定となりました。ここ数年悩みの種であったパンやクッキーの成形に関して、非常に心強い助けとなってきています。このコロナ禍の影響か、メーカーからの納品がやや遅れてしまいましたが、今夏からしっかりと活躍しています。製造量も安定し、腕の疲労や痛みにも悩まされていたスタッフたちも大変助かっております。



また、今年は新型コロナの対策を取った上で街頭募金も開催されました。以前までと異なり、一箇所に数名までという縛りや、やはりどうしても不安感があるといったことなどで、利用者さんの参加は僅かとなってしまいましたが、何とか無事に完了することが出来ました。大声を出さずにパネルなどを用いて行う、いつもとは異なるスタイルでしたが、声を出すのが苦手なタイプの利用者さん等には却って気楽にやれて良かった面もあったかもしれません。

## ～弱者再生環境の共生ワーキング 進捗～

昨年から本格始動した共生ワーキングの進捗状況です。植物の環境の中において、人間を環境に欠かせない人々して捉え、植物環境の中で人間が心身ともに豊かになっていく構成です。もちろん、職業リハビリテーションも含まれています。



園芸療法士育成については全国から応募があり、一年のレポート提出と5日間の実習があります。植物がある季節に事業をしています。殆ど本州からの生徒さんとなっています。最近は職業として捉える考えで来ている人が多く見受けられます。植物を立派に育てることではなく、植物環境を利用して人間に接点を持たせて弱点を補う療法であります。癒しだけでなく、人間の心を回復させるのは、ちょっとした技術も必要で、その部分は「一本の・一枝の」植物が見せてくれます。命ある植物からの教えであります。現実、遠ざかった世界に私達は置かれているので、薬に頼ることが多いのです。そういったこともあり、療法士の卵になる人が生まれていっています。

## ～赤い羽根共同募金 助成事業 緑友会～

昨年の赤い羽根共同募金会で応募しました車両整備事業について、助成決定の通知がありました。B型事業再開までは半分法人自体が休止状態であったため、法人所有の車両が無く不便な思いをしてきましたが、本年をもってついに改善と相成りました。法人本部への移動や仕入れや納品に、利用者をお送りしたり、緊急時に病院へ利用者をお連れしたりと、既に様々な場面で多大な貢献を果たしてくれております。



本年は緑友会としてはかなり久しぶりになりますが、赤い羽根の街頭募金にも参加することとなりました。やはり新型コロナへの不安もあってか、利用者さんの参加は殆ど無しとなってしまいました。全体の参加者についてもかなり少ない印象で、コロナ禍の影響の大きさを改めて感じた一幕でした。そんな中でもご協力いただいた人たちには本当に感謝の念を禁じえません。実際に街頭に立ってみるとこれが中々にハードなもので、学ぶことの多い一日でした。今後は募金箱にお金を入れる側でも、今までより積極的に参加していきたいと思いを新たにしました次第です。

皆さんも機会があれば、是非ご参加してみてください。

## ～障がい者と犯罪・非行系の人について～

緑友会 津崎 秀樹

私は令和3年の4月から当法人の職員として働いています。現役の時は心理技官として全国の刑務所や少年鑑別所などの矯正施設において受刑者や非行少年の心理アセスメントや相談・カウンセリング業務を行っていたのでその実務を通して気づいたことを述べてみます。

まず、犯罪・非行系の方は「世間や社会とかかわりたくない」という無力的な生き方をする傾向があります。障がいの方が自分のハンディを超えて「何とか社会とつながりたい」とするのと一番違う点です。

次に、犯罪・非行系の方は時間的展望が持てないということがあります。つまり、「今が良ければそれで良い生き方」をしています。そのため、平気でルールを破ったり衝動的な行動に走るようになります。この二つの点から、非行・犯罪系の方は「怠け者意識」が基底にある人が多いのです。

一方、障がい者と犯罪・非行系の方の共通点としては、様々な要因で「生きづらさ」を持っていること、世間や社会とのつながり方で強いストレスを感じていることが挙げられます。それゆえ、精神健康の回復を促す園芸療法は、犯罪・非行系と障がい者のいずれにも有効な手段であると思うのです。